

国語プリントNo. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

技術者の心 その一 文の構造

文章は文の集まりである。一文で何をいつているのかが分かなければ、その文章で何がいたいのが分からない。文章を読み取るときにつまずくのは、一文一文を理解できないことから始まる。その一文は何を言っているのか、シンプルに理解することから始めよう。

《例》

- (01) あっ、私の大切な花瓶が机から転げて落ちて行く。
- (02) 立ち上がった拍子に机にぶつかり、花瓶は安定を失って転倒し、手で支えるひまもなく床の上へ。
- (03) この自然現象としての落下を誰も途中で止めることはできない。
- (04) 止まれ、と叫んでも無駄、次の瞬間に花瓶は堅い床にぶつかって粉々になるだろう。
- (05) でも、アリスは兎穴の中で落下しながら、ジャムの容器を手にとったり、また棚に戻したりすることができたのだ。

- (06) そして深い穴の底に落ちて、かすり傷一つ負わなかった

《課題》それぞれ担当者を決めて責任を持って構造を読み解こう。

番号 担当者

- (07) () 心とは自由なものである。
- (08) () 人が考えたり、感じたり、意欲を持ったたりするのが心によるのだとすれば、その心は、いわば自然の世界から解放されていて自由なのである。
- (09) () 心が自然界の法則から解放されていて自由であるということは、人の大きな特徴である。
- (10) () そしてこのことが、人が技術を持っていることの根拠でもあると考えてよい。
- (11) () 技術というと、自由な心などというものと思わないと思う人が多いだろう。

番号 担当者

- (12) () 確かに実現された技術とは、たとえば空を飛ぶ飛行機は、空気力学の法則に厳密に従っているはずなのだし、エンジンは熱力学の法則に違反したら実現しない。
- (13) () あらゆる技術は、自然法則にしっかりと縛られて、お行儀よく存在しているものである。
- (14) () その結果「技術とは自然法則の意識的適用」というような、見当違いの定義で技術がわかったような気になる人が出て来ても止むを得ないことになる。
- (15) () 確かにでき上がった技術は、自然法則の中でしか存在し得ない。
- (16) () これは当たりまえのことである。
- (17) () しかし新しい技術を作り出している現場に行けばすぐわかることだが、それを支配している原則は、法則の適用ではなくむしろ法則への攻撃と言った方がよい。
- (18) () 別の言い方をすれば、私たちが法則と呼んで納得しているものから、いかにして解放されるかが課題となっているのである。
- (19) () その時、この解放を支えるエネルギーが、人の、自由な心である。
- (20) () この自由を、概念形成を例にとって考えてみよう。
- (21) () 人類は古い時代に、金属とガラスの存在を知ったであろう。
- (22) () 金属は、不透明であり、電気を流し、そして塑性変形する。
- (23) () ガラスは透明で、電気を流さず、そして脆性である。
- (24) () 人はそのとき既に次のようなものを考えた。
- (25) () たとえば透明で、電気を流し、そして塑性変形するもの。
- (26) () もし金属とガラスについて前記の三つの性質を考えたとしたら、極めて自然に、組み合わせによって八種類の物質についての概念を形成したはずである。
- (27) () 透明で、電気を流し、そして塑性変形するものはその中の一つに過ぎない。